

裏側矯正（リンガル矯正）の副作用とリスク

矯正装置が直接的な原因となるもの

・矯正中、発音がしづらくなることがあります。舌を歯の裏側にあてて発音する言葉は、裏側に装着してある装置が邪魔になって不明瞭になることがあります。意識的に発音の練習をしないと、うまく発音できない状態が続くこともあります。

・装置が裏側につきまので、舌にあたり、食べづらさを感じることがあります。多くの場合、徐々に慣れていきます。

・矯正中、舌の動きがスムーズにいかない場合がありますが、多くの場合、しばらくすると慣れます。

・裏側矯正は、常に舌が装置に触れているために違和感を生じることがあります。また、装置が舌にあたって、あとがつくことがあります。個人差はありますが、装置を装着してから1～2週間ぐらいで慣れてきて違和感も薄れる場合が多いです。慣れない場合は歯科医師に相談してください。

・裏側の治療装置は、舌がワイヤーに引っ掛かる場合があります。歯の裏側に装置があると、舌がワイヤーに引っかかることもあり、舌を傷つけてしまう場合もあります。また、舌が収まる上顎の部分が、装置によって狭く感じる違和感もあります。こちらも次第に慣れますが、辛い症状が続く場合は、歯科医師に相談しましょう。

・矯正治療中に装置が当たることで頬の内側に傷がついたり、口内炎になったり、歯の移動に伴う痛みを感じることもありますので、必要に応じてワックスで対処する場合やその他の対処策を行う場合があります。

・矯正装置を装着した直後や、ワイ

ヤーを交換した直後に痛みを感じるがありますが、多くは数日でおさまります。また、冷たいものを飲んだときにしみる「知覚過敏」があらわれる場合がありますが、基本的に数日で改善されます。長期間痛む場合は、歯科医師に相談しましょう。

金属アレルギー

・矯正装置には、さまざまな金属素材が使用されているため、金属アレルギーのある方、不安がある方は、皮膚科で行われているパッチテストをうけて、アレルギー材料を特定し、歯科医師に伝えてください。矯正装置を装着したあとに、皮膚や口腔の粘膜にアレルギー症状が起きた場合は、速やかに歯科医師の指示を仰いでください。

抜歯・麻酔

・矯正をしたい箇所に十分なスペースがない場合は、抜歯を必要とする場合もあります。健康上問題のない歯の抜歯の場合もあります。・抜歯する場合は麻酔注射を行います。麻酔の中には、成分に心拍数、血圧を上げる作用があるものもあるため、心臓や血圧に問題がある方が使用すると、動悸、血圧上昇を起こす場合があります。また、頬を噛んでもわからなかったり、熱いものを飲んでもわからないため、口腔内を傷つけるリスクがあります。さらに、麻酔によって悪心、嘔吐、アレルギー反応が起こることもあります。

虫歯・歯周病

・矯正治療中、矯正装置の周りなど、ブラッシング（歯磨き）しにくい部分ができるため、虫歯や歯肉炎、歯周病などのリスクが高くなります。間食を控え、矯正治療中に合ったブラッシング指導を歯科医師より受けて、毎日丁寧なブラッシング、歯を清潔にしてリスクを抑えましょう。また、歯科医院で歯をクリーニングすることや、フッ素塗布など、歯科医院でのケアも有効的です。

・矯正中、虫歯などが悪化する場合があります。治療終了後に虫歯の治療をする場合と器具を一度外して虫歯の治療を行う場合があります。

・矯正治療前に、一般の歯科で虫歯、歯周病の治療を行う必要もあります。

治療終了後

・矯正終了して数か月から数年経過すると噛み合わせが悪くなる可能性があります。噛み合わせが悪くなると、咀嚼障害、頭痛、肩こりが生じる事があります。また、噛み合わせのバランスが崩れることで、開口障害、顎関節症を発症する場合があります。他にも自律神経失調症になることもあります。噛み合わせが原因の場合は、噛み合わせの治療が必要になることがあります。

・矯正終了後に矯正箇所が元に戻る場合があります。

その他

・矯正中、頭痛、首や肩のこり、強い倦怠感、吐き気、不眠など不定愁訴が起こる場合がありますので、鎮痛剤、吐き気止め等、歯科医師の指示のもと服用す

る場合があります。・治療中と治療後の見た目に個人差が大きくあらわれる治療です。また、歯科医師との見解の相違も起こりえます。歯科医師とよくご相談ください。・歯の根が短くなる「歯根吸収」が生じることがあります。これには歯根の形態、歯根周囲の骨の状態など、様々な原因があります。・歯や骨の状態、歯の動きを妨げる癖があった場合、虫歯や歯周病の発生など、治療計画よりも治療期間が長くなる場合があります。・矯正治療では、歯肉が下がる場合（歯肉退縮）があります。特に切歯（せっし：上下前歯各4本）、歯の凸凹が大きい患者様の場合、発症する事があります。・個人差により治療期間が長くなる場合があります。・固いものが一時的に噛みにくくなる場合があります。また、ガムや餅など、装置に引っかかるものが食べにくくなることもあります。・装置が壊れることがあります。その際は歯科医院を受診してください。・個人差があり、かなりのストレスを受ける患者さんもいます。・矯正中は、器具を装着するため、食べかすが詰まりやすく虫歯、歯周病が生じやすくなります。・虫歯や歯周炎が発生すると一旦、装置を取り外して歯科医院で治療をする場合があります。・患者様が、取り外しできる矯正装置や補助装置の装着時間を守っていなかったり、定期的な来院ができなかった場合は、治療期間が延びる場合があります。・特殊な噛み合わせ、骨の硬さ、歯のかたちの場合は、治療期間が長くなる場合があります。・舌で歯を押す癖や、歯並びに悪影響をあたえる癖が改善され

ない方は、治療期間が延びる場合があります。・矯正治療で歯を動かして歯並びを整える「動的治療」を終えて歯並びが改善されても、まだ歯が元の位置に戻ろうとする傾向があるため、動かした歯をとどめておく＜保定＞が必要です。歯の位置が安定するまでの保定期間には個人差があるので、治療後も歯科医師の指示を守ってください。